

常夏の島に着陸

ホノルル国際空港に降り立った途端、南国独特の香りが漂ってきた。ヤシの木が風に揺れ、色鮮やかな花々、深い緑の山々。まるで真冬の日本から常夏の楽園へ瞬間移動したように思えた。気温は程良い暖かさであった。世界中の人達が常夏の島・楽園ハワイを求めてやって来る。

空港内ではあちこちで日本語が飛び交っていた。税関の職員から係員に至るまで日本語で対応してくれる。日本人にとってこれほど安心のできる都市は、世界中を探してもハワイ以外にない。いかに日本人旅行客が多いかが伺える。そして更にハワイ在住の日系人は2000（平成12）年の人口分布調査によると、21万1364人。ハワイの全人口の約18%を占めているのだ。

ホノルル国際空港はハワイ州最大の空港で、真珠湾の南東に位置している。ここはアメリカとアジア各国との結節点として、24時間ハブ空港の重要な役割を果たしている。大自然を大切にする常夏ハワイの素晴らしい魅力は、いつまでも変わらないが、2001年アメリカ同時多発テロ事件、2003年SARSの流行、2007年世界金融危機、2008年燃油サーチャージ導入、リーマン・ショック等、予測もつかない社会状況の変化に日本からの観光客も年々減少しているようだ。

これまで日本人観光客は、1997（平成9）年には円高に加え、米国への観光ビザ免除もあり、ピーク時は年間222万人だったが、2008（平成20）年には116万人になっている。これは世界遺産を始めとする海外旅行選択肢の多様化などもあるには違いない。しかし観光地ハワイとして時代のニーズを、的確に対応していかなければ生きていけないのではないかと。撮影 2010年冬

